

2018年3月期 第1四半期 決算の概要

2017年8月1日

日本ユニシス株式会社

Foresight in sight

売上は前年同期並みも、製品販売増益等により営業利益は+15%の増益

(単位：億円)

| | 第1四半期(4-6月) | | 前年同期比 増減 | |
|----------------------|-------------|---------|-------------|---------|
| | 2018/3期 | 2017/3期 | | |
| 売上高 | 561 | 561 | +0 | +0.0% |
| 売上総利益 | 138 | 136 | +1 | +0.9% |
| 販管費 | ▲123 | ▲124 | +1 | +0.6% |
| 営業利益 | 14 | 12 | +2 | +15.2% |
| (営業利益率) | (2.6%) | (2.2%) | | (0.3pt) |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | 13 | 9 | +4 | +48.2% |
| 受注高 | 575 | 620 | ▲45 | ▲7.3% |
| 受注残高 | 2,121 | 2,175 | ▲54 | ▲2.5% |

<1Q決算のポイント>

- 売上高
システムサービスが減収となるも製品販売及びアウトソーシングが伸長し前年同期並み。
- 営業利益
製品販売での増益および販管費の減少等により増益。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益
営業増益に加え、営業外費用の減少等により増益。
- 受注高・受注残高
受注高は前年同期のアウトソーシング案件計上の反動減等により減少。受注減に伴い、受注残高も減少。

【ご参考】 1Q(4-6月)の売上高、営業利益、純利益の5カ年推移 (単位：億円)



向井でございます。

これより、2018年3月期第1四半期の決算概要について、ご説明申し上げます。

資料の1ページをご覧ください。

第1四半期の業績は、売上高は前年同期と同額の561億円、営業利益は前年同期比+2億円増益の14億円、四半期純利益は前年同期比+4億円増益の13億円となりました。

売上高は、システムサービスおよびサポートサービスで減収となった一方で、製品販売及びアウトソーシングが伸長し前年同期並みとなりました。

利益面では、採算の良いソフトウェア販売案件の計上があり、売上総利益が前年同期を若干上回ったことに加え、販管費が営業支援費や事務所経費の削減などにより減少したことから、営業利益・純利益は増益となりました。

次に受注高については、アウトソーシング約定で前年同期に長期大型案件の計上があった反動に加え、システムサービスにおいて当期1Qに見込んでいた大型の開発案件の受注が2Qにスリップした影響などにより、前年同期比▲45億円減少の575億円となりました。

受注残高につきましても、今申し上げた受注の反動減やスリップの影響により、前年同期比▲54億円減少の2,121億円となっております。

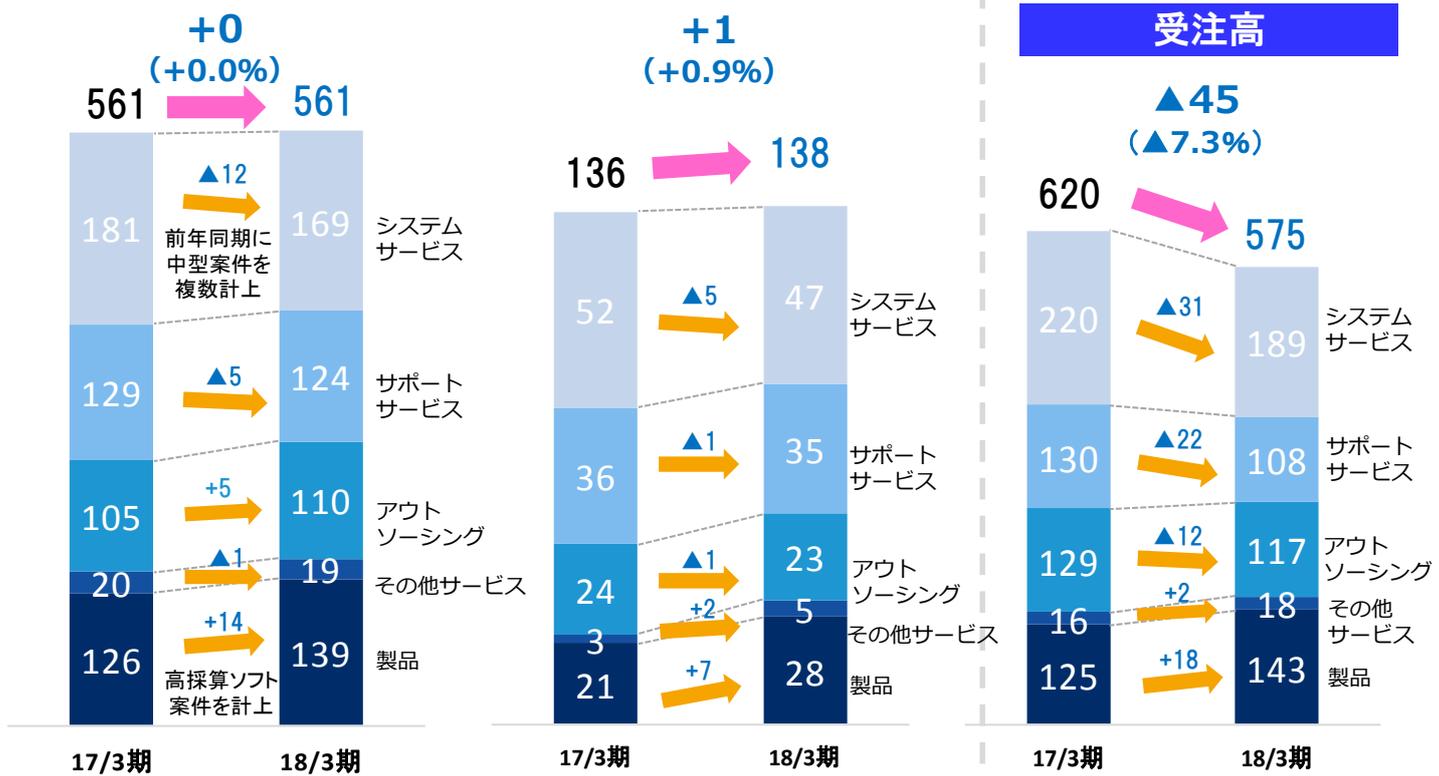
(単位：億円)

売上高

売上総利益

【ご参考】

受注高



続きまして、セグメント別の状況について説明いたします。資料の2ページをご覧ください。

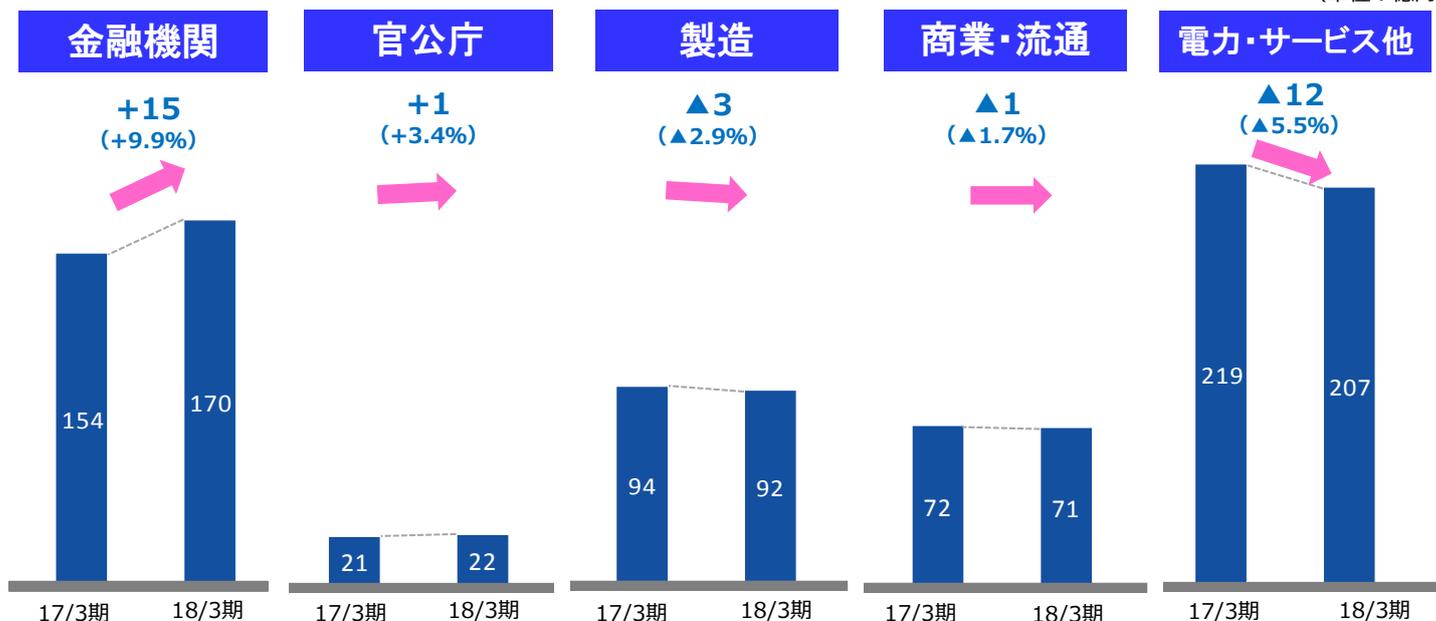
システムサービスは、前年同期に小売業向けなどで中型案件の計上が複数あったことにより、減収・減益となっております。なお、第1四半期に不採算案件の発生はございません。

サポートサービスは、アウトソーシングサービスへの切替や、スポット契約の減少などにより減収となりましたが、引き続き外注費などのコスト削減に取り組んでおりますことから、売上総利益は前年同期並となっております。

アウトソーシングは、今年5月からBankVisionの10行目が稼働しているほか、今年1月から信用金庫向け勘定系システムが稼働している効果もあり増収となった一方、サービス開始に向け準備中の案件で先行費用の発生などがあり減益となっております。

製品は、利益率の高いメインフレームのソフトウェア案件の計上があり、前年同期比で増収・増益となっております。

(単位：億円)



マーケット概況

(金融機関)
BankVision10行目および信金向け案件が新規稼働開始。FinTech活用やフロント領域強化、生産性向上に向けた案件の引合いが活発

(官公庁)
リスクを見極め案件を選別

(製造)
自動車中心に需要は底堅く推移。IoT関連ビジネスの獲得拡大に取り組む

(商業・流通)
小売は導入型ソリューションの引合いが活況。ロボティクス/AIを活用した接客、バックヤード業務対応を推進中

(電力・サービス他)
エネルギー管理システムを軸とした社会基盤領域ビジネスを強化。クラウド型タクシー配車システムを拡販中

続きまして、マーケット別の状況を説明いたします。資料の3ページをご覧ください。

金融向けビジネスが引き続き堅調に推移しております。今年1月に信用金庫向け勘定系システムが、5月にBankVisionの10行目が新規に稼働を開始したことに加え、昨年度獲得した11行目の開発がスタートしております。また、金融機関においてはFinTech活用による新たなビジネスモデルの創出や、顧客接点強化、生産性向上に向けた案件の引合いが活発となっております。

官公庁は、リスクを見極め案件を選別しております。

製造につきましては、自動車向けを中心に引き続き需要は底堅く推移しております。

商業・流通は、小売向けの導入型ソリューションの引合いが活発となっております。

電力・サービス他では、キャリア向け案件が一部2Qにスリップしたことや、電力・ガス小売自由化案件の一巡などから減収となっておりますが、エネルギー管理システムを軸とした社会基盤領域のビジネスを強化しております。また、クラウド型タクシー配車システムが大手事業者向けに6月に正式に採用されたことを受け、さらなるビジネス拡大に取り組んでおります。

上期の売上高、営業利益、四半期純利益の予想は
公表値（5月9日）から変更なし

(単位：億円)

| | 18/3月期 1Q実績 | | 18/3月期 2Q予想 | | 18/3月期 上期予想 | |
|----------------------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|-------|
| | 金額 | 前年同期比 | 金額 | 前年同期比 | 金額 | 前年同期比 |
| 売上高 | 561 | +0 | 739 | +25 | 1,300 | +26 |
| 営業利益 | 14 | +2 | 41 | +3 | 55 | +5 |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | 13 | +4 | 24 | ▲2 | 37 | +2 |

* 上期予想の内訳は補足資料をご覧ください。

【2Q(7-9月) 営業利益の増減分解】

(単位：億円、増減は前年同期比)



業績予想についてご説明いたします。
資料の4ページをご覧ください。

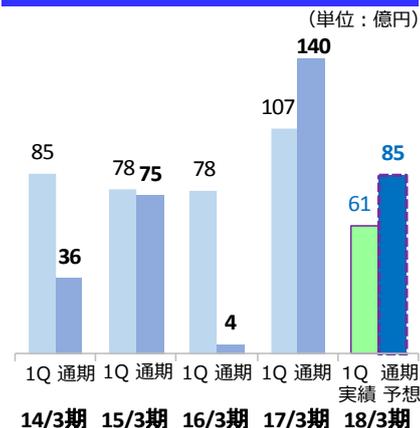
上期の売上高、営業利益、四半期純利益予想については、5月9日の公表値から変更ございません。

第2四半期については、売上総利益はアウトソーシング及びシステムサービスを中心に+6億円の増益、販管費は研究開発費および事務機械化費の増加などにより▲3億円の増加を見込んでいることから、営業利益は前年同期比+3億円の増益を計画しております。

なお、現時点で特段の懸念案件がないことから、第2四半期においては不採算リスクは見込んでおりません。

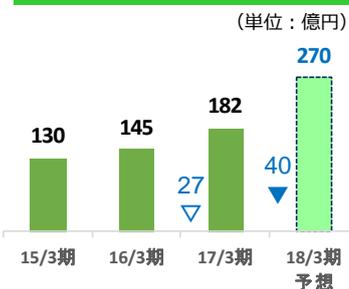
▼ 今年度1Q実績 ▼ 前年度1Q実績

フリー・キャッシュ・フロー

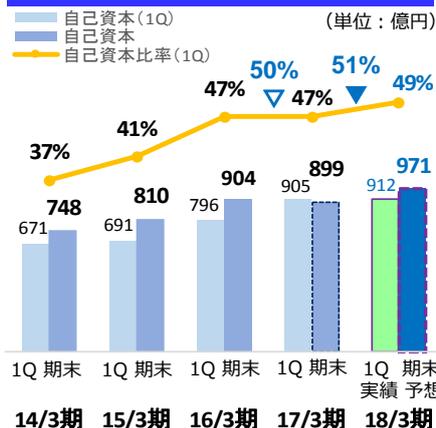


売上高

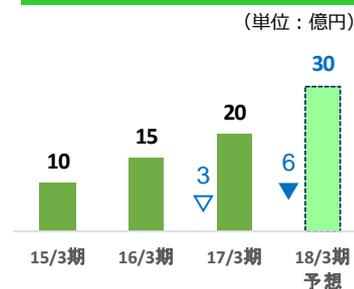
デジタルイノベーション



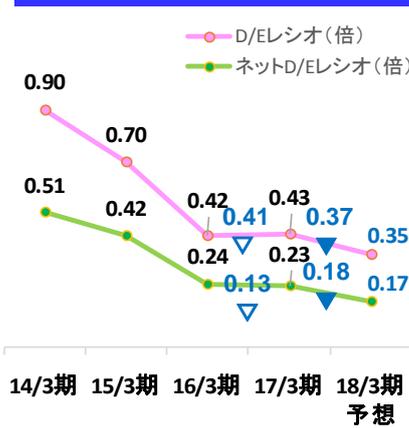
自己資本



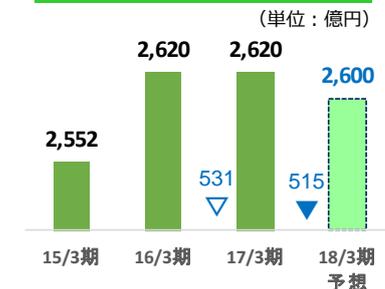
ライフイノベーション



D/Eレシオ



ビジネスICTプラットフォーム



5ページをご覧ください。

ご参考までに財務面では、

フリーキャッシュフローは61億円のポジティブ、自己資本比率は51%、

ネットD/Eレシオは0.18倍となっており、財務体質も引き続き着実に改善しております。

以上をもちまして、2018年3月期第1四半期 決算概要の説明を終了いたします。

Foresight in sight

UNISYS

(注意)

本資料における将来予想に関する記述は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づいております。実際の結果は、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予想と異なる可能性があり、当社グループとして、その確実性を保証するものではありません。

また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。